



よ一丈出来たよか彼女と別れて、完全にぶち切れ状態になった人間格闘カイボーグ方しゃんから「今日ほとこじん」つき合えよ。彼女ば忘れるために俺は頭も丸めたバイ」といわれ、とあるディスコにいったオレたち。やけになってけかしたくしょうがないうるおれがぶれにうなる方しゃんにいきなり声がかかった！

「オ！何やんだよー。踊りのじやまするなー！この夕ー！！」うあ！とうとうきたか。方しゃんが求めていた忘れるためのバトルが今こに始まるというた。

「えー！誰かあー今オレに文句言うたのはー！！」えー？ えー？ えー？」方しゃんは大声でせがむ

「それだよー！！ おまゑなあ。みんな楽しく踊るんだ。せまい中おれを気をつかってマナーをむつと踊るんだよー。何いきがうるんだ。えー？ 楽しんでなならイヤにいきなっ！！」



方しゃんにむかって1人の女の子がさげんだ。どう！もっもなことを、勇気あるひと言が方しゃんの心にささった。いやハートに火をつけた。ボクは「おはいい！」と思いはがらも方しゃんの彼女に対する心の変化をすい言売みとった。「ゴ、ゴハネ」方しゃんが彼女に不器用にあやまった。彼女も一目見二ゴッとしてどう二人のやりとりは一瞬だたけ

よちんと通じたんだ。と・と・とこらかである。とうとも知らな。この店の常連のけんか女子達のジョージ達がいきなりこうまた

ま、ま、ま、まー！！
方しゃんは彼女の一言で十分反省して。次に歩みはじめたのに……。つまり合まの彼女のことは忘れて



「君みたいなのがよかな」と思う。どう思ってたんだと思う。まさに多量活のペースを歩み始めた瞬間だったのに！！

えー！もういっや。しょうがない。ボクも月夜を決めたのね。方しゃんの恋のフィナーレ。とに新たな恋のスタート。はなはなくパーッといくかあ どう思ってジョージ達の後をついてお店を出てある駐車場にいった時。そう、いつバトルが始まるかの準備（じもイ本も）完了の時。また女神の声が聞こえたよ。「ジョージ！！やめなっ！ その夕はよくやがたんだから。私にちやんと謝ったんだよ。こんな悪いやぢやあなっ！！」 その知はマリー。アフロヘアをリゼント/風とセトしてラメ入りのあざやかなグリーン色のセーター。黄色のミニスカートというのでたち。マリーはそのディスコの女王で、ある暴走族の子の看板娘であった。今こいうディースの頭目のようなゆ。誤解がとけて。店にもじり。何とジョージとこの中向。とて方しゃんとボクで中なおりのハイをあることに……。いやとこの人達が知らな。せび相当やん達だわー！！ジョージは……